

SSKO

社会福祉法人 はらからの家福祉会

われら同胞

NO.67



プラッツ文化祭

☆☆☆ 目次 ☆☆☆

- 2 p 新年のご挨拶
- 3 p はらからWay
- 4 p プラッツ文化祭報告
- 5 p さつきプログラム報告&新職員紹介
- 6 p 賛助会コーナー

謹賀新年



あけましておめでとうございます。令和六年の新年を迎えるにあたり、はらからの家福社会を代表して皆さまに心よりのご挨拶を申し上げます。

日頃より当会の諸事業に対するご理解、ご支援、ご協力を賜り、誠にありがとうございます。

当会では、長らく準備を進めてきた新しい倫理綱領・行動規範『はらからWay』を完成させ、今回の紙面で皆さまにご紹介させていただいております。

この取り組みは、私たちが抱く価値観と支援活動の方向性を、全組織員が共有するための試みです。私たちの法人理念を具現化すべく組織としての行動指針を示すものであり、また、日々の業務における反省と改善の指針ともなります。皆さまのお手に取っていただき、ご一読いただければ幸いです。

昨年、八王子市の滝山病院の看護師が患者への暴行の疑いで逮捕されました。NHKの番組で病院の内幕が報道されましたが、皆さまご覧になりましたでしょうか。事件は支援者の倫理観に関わる深刻な問題を示しています。不適切な行為に及んだ個人やその組織の責任は、厳しく問われるべきです。しかし、このような問題が繰り返される現状は、支援を必要とする人々への社会的な認識と支援体制の全体的な改善を促すものであり、これは私たち全員の課題だと思っております。

良質な支援が存在するためには、支援者のモラルは大きな要素ではありますが、それだけで事足りるわけではありません。支援者と被支援者間の信頼関係の構築、職員の専門性と技術の向上、職員を支える仲間や組織の力、制度や法律と経済的な基盤、さらにはそれを支える地域社会の皆さまの理解とご協力がとても大切です。

地域の皆さまとの連携を深めることで、より良い支援環境を築き上げて社会全体で支え合う体制を強化していくことが可能になると考えています。はらからの家福社会では、支援者の資質向上はもちろん、地域コミュニティとの絆を深め、誰かが支援を必要とする際、私たちがそこにいられるよう、全力を尽くしてまいります。今後とも、皆さまのご支援とご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

今年のご干支である龍のように、私たちは常に高い志を持ち、力強く前進したいと思っております。『はらからWay』を我々の道しるべとして、この一年を龍のごとく、知恵と力を結集し、困難を乗り越えていこうと思っております。

末筆となりますが、本年が皆さまにとって幸多き一年となりますよう祈念いたしましたして、新年のご挨拶とさせていただきます。

令和六年 元旦
社会福祉法人はらからの家福社会
理事長 藤田英親

～はらから Way のロゴ②小話～

はらから Way を形にするにあたり、より親しみやすい工夫ができないかということで、ロゴを作成しています。



ロゴ②を形作っているカラフルな小さいパーツは、さつき共同作業所で作成している「リユースパーツ」というものです。陶芸の製作の過程で、割れてしまった製品等を砕いて着色して焼き上げ、普段は製品の装飾等に再利用しています。さつき利用者さんの思いがこもった小さなかけらが並ぶことは、沢山の職員の思いや経験を集めて出来上がったはらから Way のロゴにピッタリなのではないかと思っています。

※次ページのロゴとロゴ②は活用方法を検討中です。

皆が大事にしていること

「生命の尊厳」

私たちは、生命の尊さを理解し、利用者お一人お一人をかけがえのない大切な存在として尊重します

「本人主体」

私たちは、利用者が自分自身の人生を歩んでいることを忘れず、個性・主体性を尊重し、自己決定に基づいて支援します

「人権の擁護」

私たちは、いかなる立場や状況においても、差別・虐待・人権侵害を許さず、人としての権利を大切にします

「社会貢献」

私たちは、地域福祉の推進を通じて、どなたでも暮らしやすい社会づくりに貢献します

「安心安全な場」

私たちは、利用者、職員ともに、安全な場で安心して活動できる環境をつくります

「Aging in place」

私たちは、誰もがどんな状態になっても、住み慣れた場所で安心して自分らしい生活を続けて行けるよう、本人と環境に働きかけます

「専門性」

私たちはソーシャルワーカーとしての使命感を持ち、利用者の新たなニーズや社会の変化に対応した支援が行えるよう、自己研鑽を続けます

支え合う人間関係が生まれる場を創ります



障害を持つ人も住みやすい地域社会の創造を目指します

「共生社会」

私たちは、さまざまな属性を持つすべての人と協力し、多様な生き方やあり方を尊重できる共生社会の実現を目指します

「地域とのつながり」

私たちは、誰にとっても開かれている存在や場所であることを意識し、利用者とともに地域の一人として街づくりに参画します

「ソーシャルアクション」

私たちは、利用者の声や現場の実情から、地域に共通するニーズや課題を発見し社会に働きかけることで、制度・政策・社会資源の創造と改善をします

「普及啓発」

私たちは、市民の興味や関心を理解し、精神障害や精神保健福祉に関する正確な情報を伝えることで、地域のエンパワーメントにつなげていきます

地域社会で生活する力を育む援助をします

「社会参加の促進」

私たちは、多様な社会参加の可能性を利用者と共有し、ありのままのその人らしい社会参加ができるよう、本人に必要な体験の場や支援を提供します

「その人らしい生活」

私たちは、自らも生活を営むものとしての視点を大切にしながら、利用者が地域でその人らしい生活ができるよう支援します

「伴行者」

私たちは、利用者と一緒に生活課題に取り組む間、伴って走る姿勢や立場を忘れずに支援します

「生活の質・豊かさ」

私たちは、利用者が心豊かな虹色の生活を築くことができるよう、衣・食・職・住・友・遊、7色の要素にかかわる生活全般を支援します

「学びのためのトライ＆エラー」

私たちは、利用者がチャレンジしやすい環境をつくり、成功だけではなく失敗も活かせる方法をともに考えます

「地域移行支援」

私たちは、ピアサポーターとも協同し、入院中の方など地域から離れた生活を余儀なくされている方々が、住みたい地域や住み慣れた地域で自分らしい生活ができるよう支援します

第2回 /

2023

プラッツ

文化祭

報告

今年もこの季節がやってきましたー…と云うほど、まだ回数
は重ねていませんが、11月23日の勤労感謝の日に、プラッツイ
ベントの新たな柱となる、第2回『プラッツ文化祭』を行いまし
た。

新型コロナウイルスによる制限が世間的に無くなりつつある
中、プラッツでは様々なプログラムを再開してきております。新
しい企画を続けることも、プラッツの文化を作ることになるので
は、という想いもあり、日常の支援の大変な中、スタッフの熱意
のもと、第2回の開催を迎えることが出来ました。

当日は、昨年と比べると、若干、出展者は減りましたが、展示
品は洗練された印象が全体的に醸し出されていきました。また今年
は音楽にも注目が集まりました。自作曲を引っ提げて、ギターの
弾き語りをされるメンバーさんの熱狂に心躍らされたり、スタッ
フが持っていたスティールパンを珍しげに叩き、その爽やかに響
き渡る音にあわせて、普段はあまり利用されないメンバーさんと
の近況報告の話をしたり、普段とは違う雰囲気の中、楽しい会話
に花が咲いていました。この素敵なお空間を見て、「当事者の生活
を良くしていきたい」というスタッフの想いが、メンバーさん達
の生活の糧にももらえる、と確信を得た日にもなりました。

今後も感染症対策を施しながら、メンバーさんの想いを形にし
る場の提供を考えていきたいと思っております。今後とも、新しいプラ
ッツの動向に注目をよろしく願っています。

地域生活支援センタープラッツ
毛塚和英

当日の様子については、
表紙の写真もご覧ください！

さつき共同作業所プログラム報告

『さつきワクワク劇場』と『Mस्प』

今年度はさつきの活動も、制限緩和やプログラム実施を前向きに取り組んでいくことを目標の一つに掲げて進めてきています。立川防災館での防災訓練。希望者を募ってのカラオケやボウリング、映画館での映画鑑賞。

またイベント展示用の創作活動プログラムというおもしろい取り組みにもトライしました。その中で今回は、メンバーが企画して実施した二つのプログラムを、一緒に担当したスタッフからご紹介します。とても素敵な場となり、機会があればぜひまた実施できたらと思っています。

メンバー企画の一つ目は『さつきワクワク劇場』です。さつきで映画鑑賞をしたいという声上がり、プロジェクターと音響が準備できそうだったので、実行委員さんと準備を進めて実施しました。鑑賞する映画の案も皆さんから面白そうな映画の名前が沢山出てきましたが、初回は「となり」の「トトロ」に決定。なぜなら「さつき」が出てくるから！当日は皆さんリラックスしながら鑑賞され、中には号泣される方や、子供時代を思い出されたという方もいました。最後はそれぞれの感想を共有して劇場を閉じました。

メンバー企画の二つ目は『Mस्प』です。毎月一回の音楽リフレッシュアワーの拡大版として二人のメンバーが中心となって、「何かやりたい！」と五月から打合せを始めました。たくさんの方に参加してもらえるように楽しい企画、くつろげるようにソファアを用意するなど話し合いを重ねてきました。当日の目玉企画として、きつねダンス・恋するフォーチュンクッキーを曲に合わせて、思い思いに踊りました！マリーゴールド・手紙（拝啓 十五の君へ）・瞳を閉じての曲を聴きながら、ミュージックベルを鳴らしたり、好きな楽器で自由に合奏したりと皆で音とリズムを楽しみました。♥映像と曲がマッチして、グッとくるプログラムでした♥

作道康介・首藤なずな・砂口美奈子

新人紹介～今年度も同胞が増えました～！

八月に入職致しました、松本 宗一（まつもと しゅういち）と申します。

以前は高齢者施設や生活保護施設で介護職員をしておりました。はらからではグループホーム世話人として勤務しております。

出身は神奈川県川崎市で、東京都へ引っ越してから十年程経ちますが、国分寺市についてはあまり土地勘がなく、先輩に教えて頂きながら少しずつ道を覚えていくところです。

学生時代は文学部に所属しておりましたが、読書よりも映画鑑賞に熱中し、学校近くの小さな映画館で昭和の映画を見ておりました。その頃はあまりテレビを見ておらず、最近の芸能人について疎かった事もあり、周りからは「おじいちゃん」と呼ばれていました。

ここ数年は、映画等をきっかけに好きになったアイドルグループを応援するようになり、徐々に趣味が昭和から平成・令和へと移り変わって来ております。

スポーツは得意ではなく、球技に関してはからっきしダメなのですが、家の中にもっているのも苦手なので、休日は自転車に乗って多摩湖や小金井公園まで行き、緑に囲まれてぼーっとしたり、近所をランニング、もしくはウォーキングして過ごしています。最近では体力が落ちてウォーキングの方が多くなっていますが・・・。

そんな、平成一桁生まれの駆け出し者ですが、どうぞよろしくお願ひ致します。



グループホーム ピア国分寺 松本 宗一



はらからの家福社会賛助会コーナー

はらからの家福社会賛助会は、社会福祉法人はらからの家福社会の運営の維持・発展のために支援・協力することを目的として、主に財政的支援・協力の活動を行っています。

当会の趣旨にご賛同いただける方のお入会をお待ちしております。会費は年間1口2千円からで何口でも可能です。会員の皆様には「われら同胞（本誌）」を年3回郵送し、活動報告及び会計報告を行っています。

皆様からいただいた会費は、毎年取りまとめてはらからの家福社会に寄付していただき、その一部はピアサポート活動参加メンバーへの活動謝礼金として使わせていただいております。はらからの家福社会では、地域移行促進のためピアサポーターの皆さんと協働し、病院が実施するプログラムへの参加や地域との情報交流を定期的に行っております。

郵便振替口座番号

00180-8-130179

加入者名：はらからの家福社会賛助会

会費をご納入いただいた方のお名前を本紙に掲載させていただいております。匿名希望の場合はその旨通信欄にお書きください。

<令和5年4月から令和5年8月の間に会費をご納入頂いた皆様(順不同 敬称略)>

生田 淳一 池谷 敏子 佐藤 久夫 丹野 章子 塚田 ひとみ 濱野 信一 加藤 初江
河崎 弘太郎 宮城 伸子 桂田 稔彦 高見 法孝 坂元 信幸 坂本 泰之 春口 明朝
小川 好秀 小峯 尚三 小林 和代 森本 美紀子 須長 三郎 中村 典男 服部 道枝
峯岸 桂一 野中 明彦 野々瀬 悟子 有限会社さやか企画 匿名10名

会員の皆様、本当にありがとうございます。今後ともなにとぞ宜しくお願いいたします。

【編集後記】

明けましておめでとうございます。

毎年、この一年が良い一年でありますように! と思っていますが、今年はどんな年になるでしょうか。皆様の一年が健やかで穏やかでありますように。

私たち、はらからの家福社会の職員が皆様の一助となれば幸いです。

今年もどうぞよろしくお願いいたします。

われら同胞編集委員一同



はらからの家福社会ホームページ

<http://harakaranoie.com/>

【編集人】

社会福祉法人はらからの家福社会
〒185-0021
東京都国分寺市南町 3-4-4
TEL 042-323-5637

【発行人】

障害者団体定期刊行物協会
〒157-0072
東京都世田谷区祖師谷 3-1-17-102

【定価】¥120円